



人権について考えてみませんか？

「ジェイソン先生は魚が苦手」「校長先生は魚が大好物」「校長先生は長距離走が得意ではない」「東野先生は長距離走が得意」——このように、人にはそれぞれ違いがあります。これを「個人差」と呼びます。

ある人にはかっこよく見えるものが、別の人にはイマイチに思えることがあります。ある人にはおいしく感じる食べ物が、ほかの人には口に合わないこともあります。また、心地よいと感じる場所が、人によっては落ち着かない場所だったりもあります。



このような「感じ方」も、もともと人によって違うものです。もちろん、成長する中で変わることはありますが、基本的には自分でコントロールできるものではありません。だからこそ、他の人と自分が違うのはごく自然なことなのです。けれども、人はついその「違い」を嫌ってしまいがちです。「普通じゃない」「みんなと違う」「自分とは合わない」しかし、大切なのはここです。人は違っていて当たり前なのです。

そして、自分と違う相手に出会ったとき、どんなふうに接するかによって、その人の「心の成熟度」や「人としての大きさ」が見えてきます。心の中でどう思うかは自由です。しかし、口に出したり、態度に表したりすることは自由ではありません。嫌いだと思ってもいいし、合わないと感じてもかまいません。ただし、それをそのまま言動に移してよいかどうかは、慎重に考える必要があります。

想像してみてください。怒りや不満をすぐに表に出す人のそばにいたいと思うでしょうか。反対に、誰に対しても優しく、穏やかに接する人は、見ていて気持ちが良いものです。例えば、体育のチーム分けで、自分が「ちょっと苦手だな」と思っている子が同じチームになったとします。そのときに「えー、その人と一緒なら負けるじゃん」と言ってしまえば、相手は深く傷つきます。けれども、「一緒に頑張ろう」「苦手なところは支えるよ」と声をかけられる人は、周りに安心感を与え、チームの雰囲気を良くします。どんな相手にも前向きな言葉や態度で接することができる人は、自然と尊敬されます。そういう人は、きっと幸せな生き方ができるはずです。



何を感じてもかまいません。しかし、それを外に出す前に、ほんの少しだけ立ち止まって考えてみてください。口にした言葉には、自分の責任が伴います。もちろん、相手を励ましたり、喜ばせたりする言葉は、どんどん使っていきましょう。温かい空気をつくれるかどうかは、いつだって自分の選択次第なのです。

12月4日から10日まで人権週間です。「“人権”とはなんだろう？」中学生として考えてみませんか。

校長 廣澤 孝俊

12月行事予定

- 3日（水）3年地域学力調査、3年三者懇談
- 4日（木）3年三者懇談
- 5日（金）3年三者懇談
- 7日（日）アンサンブルコンテスト奥能登大会
- 11日（木）穴中タイム
- 19日（金）3年薬物乱用防止教室
- 20日（土）石川県中学校選抜卓球大会
- 24日（水）終業式、生徒集会、通知表渡し
- 25日（木）通知表渡し



1月行事予定

- 8日（木）始業式、書き初め
- 13日（火）3年地域学力調査
- 14日（水）3年地域学力調査
- 20日（火）学校公開
- 23日（金）英語検定
- 24日（土）奥能登吹奏楽合同練習会（輪島中）
- 27日（火）生徒会委員会
- 29日（木）1,2年到達度テスト
- 30日（金）3年私立入試、1,2年到達度テスト



家庭学習の習慣化に向けて～「+ONEノート」の取組開始！！～

本校ではこれまで「家庭学習の時間が十分に確保できていないこと」が課題として挙げられてきました。近年はゲームやSNSに費やす時間が長く、家庭学習が後回しになる生徒も増えている状況です。

こうした中、先日の学習オリエンテーションでは、坂下先生より「+ONEノート」の取組が提案されました。これは、宿題に加えて自分で課題を見つけ、予習・復習や調べ学習などに取り組む活動です。（宿題として課されるものではなく、生徒が自分で課題を見つけ、主体的に取り組むための学習活動です。）

ご家庭でも、学習時間の確保やスマートフォン使用の見直しなど、声かけや環境づくりにご協力いただければ幸いです。「+ONEノート」を通して、家庭学習の習慣が定着することを期待しています。



「夢の教室」～夢に向かって努力することの大切さ～

「夢の教室」とは、さまざまな競技で活躍してきた選手の方々が「夢先生」として登壇し、自身が困難を乗り越えながら夢に挑戦してきた経験を語り、「夢を持つこと、そして夢に向かって努力することの大切さ」を伝えてくださる特別授業です。

今回は、北京オリンピック競泳400mメドレーで銅メダルを獲得した佐藤久佳さん が来校していただきました。佐藤さんは、中学時代に初めて味わった本気の悔しさや、高校時代につらい練習から逃げ出した経験を振り返りながら、努力を続けること、周囲への感謝をもつことの大切さをお話しくださいました。

「つらい時期は“大きく変わっている途中”であり、勇気をもって一步踏み出してほしい」という佐藤さんの言葉は、参加した2年生にとって、将来を考える貴重なメッセージとなりました。



穴水町中学生議会～私が住みたい10年後の町～

11月20日（木）に3年生が参加して行われた「中学生議会」の様子が、毎日新聞に大きく掲載されました。紙面をそのまま掲載しますので、ぜひご覧ください。



石川・穴水で中学生議会

私の復興まちづくり提言

能登地震から再生を考える「穴水町中学生議会」が20日、石川県穴水町の町議会議場で開かれた。3年生15人が震災からの学びを「私が住みたい10年後の町」として提言、質疑した。吉村光輝町長らが、時に前向きに、時に慎重に答弁した。

【中尾卓英】



返納した祖父母が段差や浸水に買い物や通院をためらう姿を見た。

町は「安全安心に過ごすには道路整備が最優

先。

シニアカーは他の

自治体を参考に慎重に検討する」と回答した。

関琴未さんは「高齢者にシニアカー（電動カート）のレンタルサービス」を求めた。避難行動計画「マイ・タームライン」作りで町歩きをし、車の免許を

石垣陽詩さんは「内内科・小児科医がオーケラリーで健康づくり」を提言した。町内の内科・小児科医が少子高齢化の急速な進行を学び、子育て世



3年間の学びの集大成と位置づけた議会終了後、吉村光輝町長、佐藤豊町議長らと記念撮影する穴水町3年生=いずれも石川県穴水町で

学び生かし「住みたい10年後」

3年生は1年の元日に震災を体験。総合学習する姿を全国の人々に発信したい」と話した。3年生は、穴水小学校に大きな体育館や居心地の良い図書館を希望する。議会後、「町が復興する姿を全国の人々に発信したい」と話した。

つらさ、居場所の大切さなどから、建て替えられる穴水小学校に、高校生で開きたい」と提案した。避難生活の来づくり会議」を小中興計画を議論する「未だに開かれていない」と話した。3年生は、穴水町の復興に携わる。議会後、「町が復興する姿を全国の人々に発信したい」と話した。

3年生は、穴水中の廣澤孝俊校長は「町の復興に携わる。議会後、「町が復興する姿を全国の人々に発信したい」と話した。3年生は、穴水町の復興に携わる。議会後、「町が復興する姿を全国の人々に発信したい」と話した。